

トバイ陸上へ

西階で整調

9/11

ハラリンピック3大会連続出場

延岡出身 東京狙う 中西麻耶さん

「練習はきついですが、市民の皆さんが声を掛けてくれるので励みになります。延岡に來ると、リラックスができて気分転換にもなります」と話すのは、インドネシア2018年アジアパラ競技大会の陸上走り幅跳び金メダリストで、ハラリンピックに3大会連続出場している延岡市生まれの義足のアスリート中西麻耶さん(34)＝大分県由布市。このほど、延岡市の西階陸上競技場で、11月にトバイで開かれる世界大会への調整に汗を流した。

中西さんは、ラグビーワールドカップの影響で大分の練習場が使えないため、西階町に住む祖母の様子うかがいも兼ねて来延。「西階での練習は約5年ぶりですが、使いやすいです。スポンサーさんの

協力もあり、理想の練習ができています」と調整の順調さがうかがえた。延岡には幼少期しか住んでいませんが、改めて良いまちだなと実感します。来年の東京ハラリンピックでは、必ずメダルを取



生徒に指導する中西さん

りたい。まずは、トバイで結果を出して、東



中西さんと土々呂中陸上部の部員 (17日、西階陸上競技場)

京の出場内定を獲得したいですね。応援をよろしくお願いします」と話した。

中西さんによると、

11月のトバイ世界大会で4位以内に入ると、来年の東京ハラリン

ピック出場の内定が決まるといふ。

土々呂中陸上部にアドバイスも

また、この日は延岡市の土々呂中陸上部の練習と偶然重なり、中

西さんが走り幅跳びの選手に助走や踏み切りなどを指導した。

顧問の佐藤慎也教諭は「延岡市出身の世界で戦う選手から指導してもらい、生徒は貴重な経験をさせていた

いた」と感謝。指導を受けた日野美咲さん(2年)は「一助走の基本などを教えてもらった。大会が近いので、学生だかことを生かして結果に仕上げたい」と目を輝かせた。